

「韓国文化研究Ⅱ」

地域みらい学科 韓国語文化コース

木下奈津紀

1. 教育の責任

本科目は、グローバル共生 IT コース、司書アーカイブズコース、韓国語文化コース（以下、本コース）に所属する学生を対象とし、2年次の後期に設置されている科目である。1年次の前期に設置されている「韓国文化研究Ⅰ」での学びをふまえ、韓国の文化や社会などについての理解を深めるための科目として位置付けられている。2年次に設置されている韓国に関連した科目（韓国語関連科目を除く）は本科目のみであり、これまでに学んだ韓国に関する知識をさらに深める役割を持っている。また、履修者の多くは、韓国語文化コースの学生であり、学習している言語の背景にある文化や社会を学ぶことで、言語の運用能力及びコミュニケーション能力の向上にも寄与する。また、異文化を学び、グローバルな視野を身につけることも目標の一つである。

2. 教育の理念

近年の韓流により、韓国に関心がある若者が増加したが、その関心がポップカルチャーなど特定の分野に偏りがある傾向にある。関心がある分野に対する学びを深めていくことも大切であるが、韓国の理解を深めるためには、文化、社会、歴史など多様な知識を習得することが必要である。本コースの2年次後期には、韓国に関連した科目（韓国語科目を除く）は、本科目しか設置されておらず、韓国に関する多様な事柄を取り上げ、知識を深められるような授業構成としている。

また、本授業では、個人の考えを深めるための個人ワーク、他者との意見交換により新たな視点を発見し学びを深めるためのグループワークなど、積極的にアクティブラーニングの手法を取り入れ、

学生の能動的な学びを促す。

3. 教育の方法

本科目の前半では、本学で韓国の現代史を取り扱う科目がなかったことから、韓国の現代史を辿りながら、当時の文化や社会について知ることができるよう授業を構成した。歴史や政治などを学ぶことに苦手意識を持っている履修者も少なくないことから、ドラマや映画、音楽など多様な視聴覚教材を適宜取り入れ、分かりやすく理解できるよう工夫した。また、毎回、リアクションペーパーを課して履修者の理解度をはかりながら授業を進めた。

そして後半には、韓国の文化や社会問題を中心に取り上げ、実際に韓国の文化を体験したり（伝統茶体験、韓服体験）、日韓の社会問題を比較しながら自分たちの意見を出し合うグループワークなどを実施した。また、韓国の長安大学校日本語コンテンツ学科の学生とのオンライン交流会を企画し、学生たちが主体となって交流のための準備をして実施した。韓国の学生たちと交流することで、学びのモチベーションの向上にも繋がった。

4. 教育の成果

学期末に行われた「授業をよりよくするためのアンケート（令和5年度 後期）」の「授業の内容に関心持ち、積極的に取り組んでいる（グループワークや課題・ノートをとる発言など）」、「この授業の到達目標を十分に達成した」という質問について、すべての学生が「とても当てはまる」と回答した。この結果から、履修者が積極的に授業に取り組み、韓国への理解を深めたことが分かる。また「話し方や説明の仕方がわかりやすい」、「授業

の目的や進め方が明確である」、「学習内容に興味を持てるような工夫がなされている」、「学生自身に考えさせる工夫がなされている」、「学生の理解を確認しながら授業を進めている」、「学生の質問や疑問に適切に答えている」という項目について、すべての学生が「とても当てはまる」と回答した。そして「内容は難しいけど説明がとても分かりやすかったです」「韓国の経済や歴史を学ぶだけでなく、実際に韓国で飲まれているお茶を飲んだり、韓国人と交流したりしてとても楽しかったです」など、この授業に対する肯定的な意見が見られた。アンケートの結果からは、やはり、韓国の歴史、政治などの理解は難しいと感じるようであるが、視聴覚教材を適宜取り入れるなど授業を工夫したことで、理解がスムーズに進んだことがうかがえる。

5. 今後の目標

教育方法については来年度以降も続けて行くとともに、履修者に合わせて授業方法を改善していく予定である。やはり、社会問題や政治経済などについては、難しいと感じる履修者もいることから、できる限り分かりやすく解説できるよう工夫していきたい。

なお、本科目は、令和6年度から1年次後期開講科目となる。それにより、学びの内容を再検討する必要があると考える。

以上